

令和6年度 第1回岩見沢市まちづくり基本条例推進委員会 議事録（要旨）

●日時、出席者等

日時	令和6年12月18日（水） 午後4時00分～午後5時30分
会場	岩見沢市生涯学習センター「いわなび」 2階 研修室6
出席委員等	委員8名
傍聴者	なし
事務局	5名

●議事録（要旨）

1. 開会

2. 委員、事務局紹介

3. 正副委員長互選

4. 委員長挨拶

5. 議題

(1) 岩見沢市まちづくり基本条例取組状況について

(事務局から説明)

みなさまにお配りしております岩見沢市まちづくり基本条例取組状況につきましては、条例の基本的事項であります、情報共有、参加、協働の3つの事項に基づいて行っている市の事業を取りまとめたものでございます。事前に資料をお送りして内容をご覧になっていただいておりますので、変更箇所の説明にとどめ、詳細の説明につきましては省略させていただきます。なお、事前に資料をお配りした際に、内容や取組みに対するご意見やご質問は、今回はいただいておりますませんでした。
—この後、変更箇所について説明—

(米内山委員長)

事務局から議題（1）の市の基本条例に係る取組み状況について説明がありましたが、ただいまの説明に対して何かありますでしょうか。

(委員からの質問)

資料4 ページ情報共有 2-1 岩見沢市ライブカメラの運用について、「岩見沢市ライブカメラ」で検索しても違うところが出てきてしまいます。慣れてないとよく分かりません。市のホームページにリンクは貼ってありますか。

(事務局)

岩見沢市ホームページに入っただけなら、それぞれのYouTubeの外部リンクに飛べるようになってはいますが、見方の周知が必要かもしれません。担当である情報政策課に伝達します。

(委員からの質問)

資料19ページ参加④2 出会いの木・想いの実について詳しく教えてください。
この事業は次年度も継続されるのでしょうか。資料16ページの参加②1 子宮頸がん予防講演会についても継続されるのか教えてください。

(事務局)

出会いの木・想いの実は、「ハート&アート展」の中で、障がいの有無に関係なく、想いや好きな絵などを描いたアート作品を通して、人と人との繋がりを表現し、共生のまちづくりを考えることを目的としたコラボワークショップです。継続すると聞いているのですが、確認させてください。子宮頸がん予防講演会についても確認させてください。後日、議事録の中で回答いたします。

【回答】

○出会いの木、想いの実について（福祉課障がい者福祉係）

開庁140年・市制施行80周年記念事業開催に合わせて、「ハート&アート展」とのコラボ企画として開催したため、継続事業ではありません。「ハート&アート展」は継続されます。

○子宮頸がん予防講演会について（健康づくり推進課健康支援係）

HPVワクチン接種による副反応との因果関係問題のため、積極的な接種勧奨を差し控えていましたが、令和3年に厚生労働省よりワクチンの安全性について特段の懸念が認められないこと、接種の有効性が副反応のリスクを明らかに上回っていることが通知されたため、令和4年に積極勧奨を再開しました。しかし、接種控えのため接種率が伸びなかったことから、令和5年にワクチンの有効性について周知・啓蒙を目的とした講演会を開催。現在は製薬会社による宣伝もあり、広く周知されるようになったため、令和6年以降は継続していません。

(委員からの意見)

情報の発信や共有をどうやっていくかは大切なことだと思っています。紙ベースだとなかなか行き渡りづらいところもあるかと思えますし、高齢の方がデジタル化にどう対応するのかなど、あらゆる人が共有できる方法、発信の方法を、この委員会で皆さんのご意見を聞きながら考えていければと思います。

(事務局)

市としてデジタルを活用してきちんと情報発信していくっていうのを進めなければいけないと思っています。また、出前講座についてもきちんとコロナ前の水準に戻していかなければいけないと考えています。今一度きちんと職員がお伺いして情報発信していく、当然市長もお伺いして情報発信というのも市政地区懇談会というものもありますが、どうしても限界がありますので、基本的にはデジタル面、あと職員がしっかりお伺いして出前講座するということも重要だと市としては話しています。

(委員からの意見)

デジタルを利用できる年齢は限られていて、そこに追いつけない人もいるということも踏まえた上での進め方を考えていかなければいけないと思います。先ほどの

YouTube もそうですが、私も全く見ません。それだとデジタル発信されている情報にはたどり着くことができません。健康ポイントも紙ベースとアプリがありますが、私はカードを更新しました。アプリになってしまうとなかなか難しいと思う方もいると思います。そういう方の取りこぼしもあると考えた上でデジタル化を進めていけば、いいシステムができるのかなと思います。

(委員からの意見)

自分の地区の老人クラブの会合では、防犯教室を行っています。現在、特殊詐欺などが流行っていて、おかしい電話には絶対出ない、メールは見ないという人が結構います。そのような中でどのように情報発信していくかというのを考えていかなければならないと思います。

(米内山委員長)

私も個人情報の取り扱いが始まってから、なかなか電話に出てもらえないということが増えるようになりました。そういうふうに情報共有をしたいのだけれども、電話に出てもらえないという難しい面もあるので、デジタル化というか、機械的にこれは大丈夫だよってところがわかるようなものがあればいいなと思います。

それはそれで今後の課題ということになりますけれども、このことについて事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局)

セキュリティの話というのも当然あり、そもそも高齢の方はスマートフォンをどう扱っていいのか、それこそ怖いから出ないとか、分からないから使わないという方が多いように感じられます。ただ、そうなると、情報発信自体が難しくなってしまうのでスマートフォンの講習会を市でも開催しています。また、消費者協会でも開催していて、募集するとすぐ埋まる状況だと聞いています。今後、情報リテラシーを上げていくことも十分大事なことで考えております。

(委員からの意見)

情報発信に関しては、SNS等、何も無いところから、この委員会からも色々な意見をみんなで出し合って、実現してもらってきたように思っています。

広報のホームページに録音されたCDをお渡ししているとお書いてあったと思います。ホームページのどこか1つをポチッと押したら聞きたい情報が声で出てくるようなシステムがあればいいと思います。読むのが面倒くさい、読めないという方が結構いると思います。そのような場合は音声の方がいいと思います。

(事務局)

おそらくそのCDというのは視力に障がいのある方向けにボランティアの方が録音したもののことだと思います。ホームページの広報のページは文字の読み上げ機能があります。ホームページは全部読むかここではわかりませんので、確認させてください。後日、議事録の中で回答いたします。

【回答】

○ホームページの読み上げについて（広報室広報係）

広報いわみぎわは、読み上げる音声データがホームページ上に掲載されているので、当該箇所をクリックすることで読み上げるようになっています。ホームページにも読み上げ機能はありますが、PDFなど個別の添付ファイルは読み上げることができません。

(委員からの意見)

市民参加型の大きなイベントは情報発信や協力などがあり開催できていますが、例えば町内会やPTAなど、そのような団体がイベントを企画したとき、資金集めにすごく苦労すると聞きます。補助金などに申請しようとしても、条件的に厳しかったり、今年は補助があたって来年はあたらないかもしれないと言われたりして困っていると聞いたことがあります。岩見沢の街を活性化していきたいという気持ちがある団体はどうか助けてあげたいと思うのですが、何か制度とかあるのでしょうか。私自身、団体をやっていて、助けてあげられる部分もちろんあるのですが、資金面での援助は難しいのです。そんなに大きな額でなくてもよくて、企画を持ち込んだ時に、少額の補助を出してあげられますよというのがあるといいなと考えていました。

(米内山委員長)

現在の地域活動への支援や助成はどのようになっているのでしょうか。

(事務局)

一つで全てを補助するというのは難しいのですが、町会であれば、補助をできるものがあるかもしれません。何かしら市民連携室に相談していただくと探せる可能性があると思っています。ただそうではない、町会とか地域の団体ではない市民団体の場合は少々難しく、市民活動団体の相談支援を市民連携で行っていますが、その団体に適した金銭的な支援を見つけられるかどうかはわかりません。

何にでも使える補助金は確かにすごく使いやすいと思いますが、そのようなものはほとんどないのが実態です。一度、市民連携室に相談をいただければ、事業の内容に応じてお探しするので、あるかないか、お時間いただいて探すことも含めて対応するので、まずは一度ご相談いただきたいと思います。

(委員からの意見)

私はSNSなどをひとつおりに使っていますが、健康ポイントのアプリを入れた際は、アプリ間の連携がうまくいかず、途中でやめてしまいました。還元率も紙に比べるとずっと良くないような感じで、計算してみるとお金がもらえるようになるまでに、おそらく5年毎日歩かなきゃいけないようで、あまりこれはやる気が起きないのではないかなと思いました。

私は町会やPTAなどにあまり深く関わってないのですが、積極的に活動している人たちに対してもう少し補助や手助けみたいなものを行って、うまく連携することができれば、やる気のある方たちの組織が大きく育ち、みんながそこに集まって活動できるようになるのかなと思います。

(委員からの意見)

私は究極のアナログ人間です。ガラケーからスマホに変えるときには、若い友人

と一緒にお店に行きました。お店の方は日本語でお話ししてくださっていますが、私は半分以上理解できませんでした。その場はそれで収めて帰って、後から一緒に行ってくれた友人にどういう意味ですかと聞きました。

ただ説明を聞いても、一度だけで全てを理解することはできません。そして、先ほどのスマホ講習会に90人参加ということですが、講習会に参加したときは理解した気になるのです。ただ、あまり使わないから次の日にはもう半分以上忘れてしまうのです。10日使わなかったらほぼリセットされてしまいます。スマホなどの便利なデジタル化は私自身利用していますが、深く理解して使ってはいません。

1回押せば、何人かの人に繋がる。それは便利。でもデジタル化って言っても、それを使える人と本当に使えない人がいるということを理解していただきたいです。

そして、だんだん小さい字も読みにくくなってきているので、先ほどおっしゃった広報を聞いてってというのはすごく便利だと思いますが、多分私はそこにたどり着くのが難しい。ですから、その辺をうまくバランスをとる必要があると思います。

広報なども紙で残してもらうことも大事ですが、残すのであれば、高齢者用に少し大きな字で読みやすくしていただくような配慮をいただけるととてもありがたいなと思います。

そして今もう一つあるのが、若い子どもたちのスマホの依存というのが叫ばれている中でデジタル化を進めなければいけないという、デジタル化が及ぼす悪影響も踏まえながら進めていくといいのではないかと考えています。

(委員からの意見)

色々デジタル化していますが、停電で電気が使えない時がすごく怖いので、全部が全部デジタル化というのは正直ちょっと不安になります。私はLINEを使っています。便利なのはわかっていますが、やはりセキュリティの問題があって使いたくない人はどうしたらいいのかとか、そういう運用のところを考えていかなければいけないと思っています。

今ちょうど降雪がすごいので、ライブカメラをよく使うのですが、岩見沢市が提供しているライブカメラは街の中がどうなっているのかが分からない。テレビ局のカメラは駅前なので、国道12号の交差点あたりや、人通りが多い所を映してもらえればと思います。市外からアクセスする人はそういうところを見たいと思うので、ライブカメラの設置個所を増やしてほしいと思います。

(委員からの質問)

資料に色々書いていて、たくさん事業があるのが分かりました。この詳細を知りたいときにどこにアクセスすればいいのでしょうか。

詳細が気になる場所とか、ポイントについて担当課に直接聞いてもそれは大変申し訳ないので、資料をどこかで見るようにできるとありがたいのですが。

(事務局)

この会議の場でもっと深く資料が必要となれば、例えば紙で全員にお配りするとかなるかなりの量になるので、代表的な紹介ページのURLを資料に載せて見ても

らうということは可能なのかなと思います。ただ市民相手になると、市のホームページでの情報発信が基本になっていくのかなという気がします。この会議としては、どのようにたくさんの情報を見てもらうか、検討していく必要があるのかなと思います。

(委員からの質問)

見てください、これですよと言われたのであればいいのですが、何か新たに探さなきゃいけないとなるとそれはそれで申し訳ないと思います。

(事務局)

確かに膨大な情報を資料にまとめて見ていただいているので、もう少し詳しくとなると、我々でも即答できないものが多い状況にあります。その辺りの見せ方も含めて今後検討させていただきたいと思います。

(委員からの意見)

資料27ページ協働①-1-15ごみステーション用保管設備整備費助成金及び①-1-16リサイクルステーション用保管設備整備費助成金の上限ですが、物価高騰の影響で、上限額を上回らないことがない状況になっています。そういうところを踏まえて、この金額を見直すことはできないのでしょうか。現時点ではごみステーションもリサイクルステーションもほぼ行き渡っているのですが、この条件でも大丈夫という話は聞いたのですが、今大丈夫でもまた何年かしたら絶対作らなければいけなくなると思います。その時に備えてこの金額の見直しというのは考えていらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

担当に伝えますとしかないのでありますが、実は全く同じ質問を町連の会議でもご意見として承っています。まちづくり基本条例推進委員会の方からも同じ意見が出ていたということをお伝えさせていただきます。

【伝達】

物価高騰局面にあるため、ごみステーションとリサイクルステーションの補助上限を見直してほしいという意見があったことを廃棄物対策課に伝達します。

(2) 条例の社会情勢等との適合状況について

(事務局から説明)

条例第28条において、条例の施行から起算して5年を超えない期間ごとに、この条例の内容が社会情勢の変化等に適合したものであるかどうかについて検討し、その結果に基づいて必要な見直しを行うとされておりますが、より実情に即した条例になるよう、各年度の推進委員会にて、毎年議題として提起させていただいております。委員の皆様のご検討判断について、よろしくお願いたします。

毎年ご意見をいただいて、基本的に事務局としては、特に国の法律ですとか、そういったもので左右されるようなことは現状ないとは考えています。その上で皆様方のご意見をお聞きしながら、特に早急に変えなきゃいけない部分はないですね、と

いう確認を毎年いただく場面になっています。

(米内山委員長)

いかがでしょうか。特にご意見がないということによろしいでしょうか。

－意見なし－

社会情勢等との適合状況については、適合していると判断させていただきます。

7. その他

次に、その他に入ります。事務局から何かありますか。

(事務局)

事務局の方から、ご説明をひとつさせていただきます。

事務局としては、今期3年間、委員会で検討していくテーマを決め、取り組んでいければと考えています。案としては、「まちづくり活動のデジタル化」を考えています。市民連携室が事務局をしている、町会連合会で他市の町会連合組織と交流する機会があり、その意見交換の中で、若い世代の参入と役員の担い手確保のためにはデジタル化への対応が必要不可欠であるという意見が多くありました。

また、町会連合会では、昨年度からメッセージアプリのLINEを「無料」「大多数の人が使用している」ということで、役員間の連絡や会議の開催案内の送付用としています。今後、デジタル化、ペーパーレス化を進めていこうと考えていることです。

一方で、市民活動や各種イベントなどでは、LINEに限らずfacebook、X（エックス）、instagramなどのSNSを活用した情報発信や連携が行われています。

しかしながら、最近はセキュリティ面の課題が表面化していますし、先ほどのご発言にもありましたが、高齢者層を中心に、スマホを使うのが苦手という方も多く、デジタル化の際には、そのような方への配慮も必要になります。

このように選択肢が多く配慮も必要になるデジタル化は、現状、試行錯誤して行うものとなっているため、岩見沢市のまちづくりにとって、どのようなデジタル化があれば良いのかを検討いただくのが良いのではないかと考えています。

(米内山委員長)

ただいま事務局から説明がありました。委員の皆さんからも先ほどかなりデジタル化の検討について話がありましたので、これについては皆さんにとっても身近な問題かなと思っております。これだけということではありませんが、この3年間の取り組みの1つとして検討していくテーマにしていいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

よろしいようなので、そのようにすすめたいと思います。

8. 閉会